

日刊 動労千葉

84. 12. 20

No. 1822

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）公衆（〇四七）二二七二〇七

84年を闘いぬいて

各支部の 副支部長を聞く

情勢をゆさぶる闘いを
創りだしてゆきたい

津田沼支部 綾部 光男

勝利の闘争

内外情勢のすさまじい危機と激動のなかで闘いに明け暮れたこの一年間は、動労千葉にとって結成五周年を迎えると同時に三里塚と国鉄における本格的決戦の到来のなかで、動労千葉の「三里塚と国鉄で中曽根を打倒する運動」の路線を全組合員のものにする闘いそのものであったといえます。

ト 三里塚

国鉄労働運動解体攻撃が、日帝・中曽根の軍事大国化・改憲・侵略戦争に向かっている「戦後政治の総決算」攻撃であるというとならえかたのうえにたつて、動労千葉の結成の理念、路線、闘いの中で蓄積した真価を問うものとして闘われた3・25、10・10三里塚五割動員の決起が最も印象にのこりました。

革命の行

また、国鉄監理委員会の第二次緊急提言に基づき、87年「分割・民営化」、首切り「三本柱」をはじめとする10万人首切りを強行し、国鉄労働者に総屈服をせまる突破口としての「60・3ダイ改」合理化という未曾有の攻撃が激化しています。

臨調

われわれは「60・3」をどうするのかということだけに狭く物を見するだけでなく、かつてマル生闘争で闘いぬいた時のような政治闘争のよりあがり、情勢を揺さぶる闘いをどうつくりだすのかのカギが三里塚であり、それが国鉄決戦勝利の道であることを教えてくれた一年間の闘いを教訓化しようではありませんか。こうした闘いの成果のうえにたつて、政府、国鉄当局と一体となつて「60・3ダイヤ改正で国鉄をもつと便利にします」「骨身を削つて働く」「再建フォーラム運動」なる労使協調、経営参加路線に転落し、闘う国鉄労働者に敵対する動労

「本部」革マル追放・一掃の闘いが決定的に重要になっています。
われわれは今日の情勢に打ちかてる支部の団結を強化し、三里塚・国鉄決戦勝利へ年末から85年を重大な決意をこめて決起していききたいと思っています。

全力を出しきつた闘いが、
支部の結束力・組織力を鍛えた

館山支部 富川 清

今年も昨年に引き続き副支部長という重責を担うことになった。笹生支部長を助け、執行委員また組合員一同と協力して館山支部を大いに飛躍させたいと思う。今まで、何回となく執行委員会、また委員会を開催してきたが、その都度、議題が深刻化してきた。

特に「三本柱」なる提案が打ちだされてから顕著になつてきた。また、動乗動協定の中で、当局の狙いとして基地統廃合、要員合理化、異車種の混運用、ロングランなど、これも深刻に考えなければならぬ事項であつた。

そして「60・3ダイ改」攻撃はさらにすさまじいものである。これはどうしても打破しなければならぬと思う。成田運転区の支区化、蘇我の派出化も絶対に認められない事項である。

今年も後数日足らずになつてしまった。思い出せば色々なことが浮んでくる。四月に行つた家族組合の潮干狩りは大成功であつた。前後するが、3・25三里塚大集会は、わが支部全力をあげて取り組んだ結果、大多数の動員を成しとげることができた。

わが館山支部は、あらゆる動員要請に他支部に負けないよう精一杯取り組んだと自負している。
また、11月3日の団結祭にも大挙参加した。その結果、輝く二連勝をすることができた。

動員参加、また団結祭の勝利は何といつても組織力、組合員の結束力の賜ものであると思う。
館山支部は、これからも更なる結束力をもつていかなる攻撃にも屈せず闘いぬき、組合員一同頑張るつもりでいる。

結成5周年記念集会

結成5周年を 祝う



盛大に... 朗らかに...
記念行事
といふことなれる

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！